

我南小発 第23号

令和4年11月9日

我孫子市教育委員会 へ

我孫子市立布佐南小学校学校運営協議会
会 長 志垣 健二郎

令和4年度 第3回学校運営協議会 会議報告書 このことについて、我孫子市学校運営協議会規則第12条の規定により、次のとおり報告します。

出席委員名 谷口育男, 山田恭生, 糸賀貴之, 志垣健二郎, 駒場アサ子
川村 武, 吉岡朋久, 新堀 都
記録者 氏名 山田 恭生

(令和4年 11月9日実施)

主な議事	発言者	協議・発言等の概要
1 校長あいさつ	校長	○先日は音楽フェスタを盛況のもと開催できたことに感謝申し上げたい。今後は、可能な限りコロナ禍前のように教育活動を戻して実施していきたい。 ○運動会までは、人数制限を設けての実施であったが、林間学校や修学旅行が実施できた。また、学習参観、バザー、音楽フェスタと、多くの方に子どもの活躍を見て頂けた。
※授業参観後、協議会		
2 会長あいさつ	会長	○授業を参観し、レベルの高い授業に驚いた。 ○学校の力になっていきたい。
3 教育課程の説明	教務	○これまでの行事についての説明 ・ 2学期の大きな行事の様子 ・ 学年ごとの学習の様子 ・ 3学期の学習や行事の予定
4 協議等		
(1) 教育ミニ集会について	委員	○教育ミニ集会の内容を見たが、どのような視点で参加すればよいのか説明願いたい。
	会長	○これまでコミュニティは、どのように学校と関わるか、ということミニ集会で話し合いたかったが、な

		<p>かなかそのような話し合いにならなかった。そのため、ミーティングを重ねて、今回は実践報告とそれに対する情報交換という内容となった。</p> <p>○学校にも、何をしてほしいのか、というところを示してもらった必要がある。</p>
	委員	○我々がどのようにして協力していけばよいのか、という思いがある。
	委員	○型にはまったことに子どもが振り回されることのないように、優先順位を①子ども②学校③地域と大きく定めて、そこから柔軟に携わっていきたい。
	委員	○コミュニティ・スクールは走り出したばかり。委員同士の情報交換はすでにできている、または、教育ミニ集会の場以外でもできる。
		○子どもたちの願いや保護者の願いを知り合う場となればよい。
	委員	○初めて教育ミニ集会に参加する予定である。初参加の者にとっては、「情報交換」というのは難しい。まずは、情報が欲しい人もいる。意見は持っているけれども情報を提供することは難しくて意見が言えない人もいると思う。
		○いつものメンバーで、いつもの話をして終わってほしくない。新規の方も意見がしやすい場にしてほしいし、たくさんの思いを引き出してほしい。
	委員	○情報交換の後に「まとめ」をする必要はないと思う。ミニ集会は議題やアイデアを出し合う場と思う。何か学校の活性化につながる取り組みはできないか等、アイデアを出し合う場になればよい。
	委員	○教育ミニ集会には教員も参加することと思う。それぞれの立場から意見をだせばよい。情報交換だけが我々の役目ではない。その後どう生かすかが大切。
	委員	○主旨がぼやけている。ベクトル、目的はどこか？を知らせてほしい。思いを発信したい人は結構いる。是

(2) 学校評価について

教頭

非、方向性を示してほしい。

○項目に「コミュニティ・スクール」「小中一貫教育」を入れ、自由記述欄を「学校の良い点」と「学校の課題点」に分けて欄を作成したい。

○地域アンケートの項目に「児童の学力向上」「児童の豊かな心」を入れたい。

委員

○時代の大きなうねりを感じる。それらを生かせるアンケートにしてほしい。そして、是非、コミュニティ・スクールのこともアンケート項目に入れてほしい。

○保護者同士がどのような協力ができるか？という項目があればよい。今は、学校だけではできないことが多い。保護者や地域が安心して協力できるようなアンケートにしてほしい。

委員

○「コミュニティ・スクールを知っていますか？」のようなアンケートではいけない。関連する具体的な項目を入れこんでほしい。そして、遠慮せず保護者に協力を依頼してよい。

○今は、欠席連絡等をスマホやパソコンでできて、とても便利である。是非、学校評価もICTを使って手軽にできるようにしてほしい。そうすれば、学校の集計作業も楽になるだろう。

教頭

○アンケート項目は意見を参考にして練っていきたい。

○学校評価アンケートは、児童は1人1台タブレットで、保護者と職員はパソコンやスマホからできるように整えたい。地域の方には、これまで通り紙媒体でアンケートを実施する予定である。

○学校評価のICT化については、肯定的な意見をもらったことが後押しとなる。ありがたい。

委員

○賛成。その調子で、手紙等もICT化してほしい。

5. 諸連絡 6. 閉会	会長	○最近、「挨拶」等、家庭で行うべきことが学校に求められていると感じる。家庭のしつけの部分も大切と感じる。
	委員	○家ではできないことが学校ではできている、ということもあると思う。確かに「家庭のしつけ」も大切であるが、学校での指導に期待したい部分もある。
	教頭	○委員の方に、「挨拶は家庭のしつけである」という風に言っただけなのは、学校として実は心強い部分がある。それでも、コミュニティ・スクールは、学校と家庭と地域が一体となって子どもを育てていくことだと思う。そのためには、「どちらがどこまで担うべき」という線引きをするのではなく、一体となって子どもの育成に当たればよいと考える。 ○保護者や地域と協力しながら、学校は子どもの育成に力を尽くしたい。
	委員	○子どもを育むには、見守りの目が多ければ多いほどよいと思う。コミュニティ・スクールは、始まったばかり。長い目で見ていきたい。
	校長	○本日は、忌憚のない意見に感謝したい。今後の学校経営に生かしていく。
	教頭	○次回の運営協議会の日程の確認。

傍聴人 2 人
(市教委)